



[本コミュニケーション・オン・エンゲージメントが対象とする期間]

開始日：2019年8月29日 終了日：2021年8月28日

## 国連グローバル・コンパクトへの継続的支持の宣誓書

ステークホルダーの皆様へ

筑波大学は、人権、労働、環境、腐敗防止に関する国連グローバル・コンパクト（UNGC）10原則を支持することを確認し、ここに表明いたします。これは、国連グローバル・コンパクトに対する本学のコミュニケーション・オン・エンゲージメントです。皆様のフィードバックをお待ちしています。

本学は、UNGCの10原則を促進していく所存でございます。  
また、UNGCの10原則を本学の戦略、文化および日々の業務の一部にしていくことと、引き続き持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDGs）達成に貢献していくことを約束します。また、本学の主要なコミュニケーション媒体を通じて、本学のUNGCに対するコミットメントをステークホルダーおよび公に対して明言いたします。

このコミュニケーション・オン・エンゲージメントでは、本学をはじめとする各種組織に対して提案された国連グローバル・コンパクトおよびその原則を支持するために本学が行った取り組みについて説明しています。

なお、会員として得られた他社・団体に関する情報を第三者に漏洩しないことをお約束します。

2021年8月28日

筑波大学

学長 永田 恭介

## 【取り組み状況】

### 1. SDGs にかかる授業科目を開講

SDGs にかかる授業科目として、未来構想大学講座「地球規模課題へのアプローチ」（学士課程向け）と大学院共通科目「地球規模課題と国際社会」（大学院課程向け、個々の SDGs の開発目標に関連した計 7 科目）を開講した。詳細は以下の参考情報のとおり。

#### ○参考情報

地球規模課題へのアプローチ：<https://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses-special-lectures/pdf/splec5.pdf>

地球規模課題と国際社会（P13 を参照）：

<https://www.tsukuba.ac.jp/images/93d2ff88983c890870e9f00a39c39bab.pdf>

### 2. 地球規模課題学位プログラムにおける人材育成の継続

2017 年 10 月に、地球環境の変化や世界の人口・食糧問題など幅広い分野の知識を通して地球規模の課題を解決できる人材を育てることを目的として、地球規模課題学位プログラム（Bachelor's Program in Global Issues）を開設し、学生に地球規模課題に関する幅広い知識とその課題解決のための実践的な能力を、PBL（Problem/Project Based Learning）形式により教授している。2019 年度からは、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）より講師を招聘し、企業の視点から地球規模課題への取組について学生に講義を実施した。また、同プログラムの学生に対し、GCNJ 加盟企業へのインターンシップの機会を提供した。

#### ○参考情報

地球規模課題学位プログラム：<https://bpgi.tsukuba.ac.jp/jp/>

### 3. グローバルイノベーション学位プログラムにおける人材育成の継続

本学では、大学院修士課程において、国際連携食料科学専攻【GIP-TRIAD】（ボルドー大学と国立台湾大学との 3 大学による国際共同学位プログラム）と国際連携持続環境科学専攻【JMSSES】（マレーシア工科大学日本工学院との国際共同学位プログラム）を 2017 年度に開設し、前者は食料と健康という地球規模課題について、研究開発と社会ニーズを橋渡しすることのできる高度専門職業人の育成を目的とし、後者は持続性と環境に関する地球規模課題の解決に貢献できる国際的な高度専門職業人の養成を目指している。各専攻では、通常のカリキュラムに加えて、シンポジウムやセミナー、インターンシップなどを通じて人材育成を行っている。2019 年 9 月以降では、第 13 回つくば 3E フォーラム会議「廃プラスチック これからどうする？」【GIP-TRIAD】や「SDGs インターンシップ in マレーシア」【JMSSES】、Professionals with SDGs セミナー【JMSSES】等を開催している。

#### ○参考情報

国際連携食料科学専攻【GIP-TRIAD】：<http://www.gip.tsukuba.ac.jp/>

国際連携持続環境科学専攻【JMSSES】：<https://www.ses-tsukuba.jp/>

#### 4. 筑波会議 2019 及び TGSW2020 の開催

2019 年に世界の産官学の優秀な若手人材を主役とする討論の場として第 1 回筑波会議を筑波研究学園都市において開催し、「Society5.0 と SDGs を見据えた目指すべき社会の在り方とその実現に向けて取り組むべき課題」をメインテーマに、50 のセッションを実施した。また、2020 年には、国際的な連携ネットワークの構築を図るとともに、高い研究レベルに裏付けされた「知の創造」を行い、Tsukuba の地から世界に向けて「地球規模課題」の解決策を発信していくことを目的とする通算 10 回目の Tsukuba Global Science Week を開催した。

#### 5. SDGs 大学連携プラットフォーム (SDGs-UP) への入会

2020 年、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) が設立した SDGs-UP に入会した。これは、SDGs・ESG への世界的関心が高まる中、この分野において日本の大学全体が連携して取り組むことを目的として創出された SDGs 推進に積極的な大学間のプラットフォームである。本学はこれに参加することより、他大学とグッドプラクティスを共有し、他大学と連携して人材育成や成果発信を行うとともに、これらを通じて、SDGs の取組み及びステークホルダーとの関係強化と国際社会でのプレゼンス向上を図っていく。

#### 6. カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリションへの参加

「カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」とは、2050 カーボン・ニュートラルの達成に向けて、大学が、国、自治体、企業、国内外の大学等との連携強化を通じ、国・地域の取り組みに資する研究開発や社会実装の推進、地域やキャンパスのゼロカーボン化などに係る機能や発信力を高めるための大学等間ネットワークである。本学は、地域ゼロカーボン WG 準備委員会に参加し、コアリション設立に向けた検討を重ねてきた。2021 年 7 月には、ゼロカーボン・キャンパス WG にも参加を表明した。

#### 7. SDGs に関するテーマの講演会やセミナーを実施

本 COE 対象期間においても、引き続いて SDGs に関係の深いテーマを取り扱った講演会やセミナーを実施してきた。主な講演会やセミナー等は以下のとおり。

- ・学群生向けの自由科目「ワークライフ学—男女共同参画とダイバーシティ—」
- ・TIDE シンポジウム【What is the next step? ～次の一步は何か?～】
- ・「小貝川藻類バイオマス研究ステーション見学ツアー」
- ・インクルーシブ・リーダーズ・カレッジ～ダイバーシティ時代の共創型リーダーシップを学ぶ～ ※筑波大学エクステンションプログラム
- ・茅葺きワークショップ in YASATO
- ・第 2 回国際シンポジウム「地域社会と多文化共生」
- ・第 139 回バイオカフェ「海から空へ～海洋微生物が作る有機物を追いかけて～」
- ・第 13 回つくば 3E フォーラム会議「廃プラスチック これからどうする？」
- ・山岳科学センター・自然保護寄付講座共同国際シンポジウム「山岳域における自然と人の関わり合い」
- ・「学際的・国際的視点から見たダイバーシティとインクルージョン：LGBTQ を巡る今日的課題

に焦点を当てて」

- ・国際連携食料健康科学シンポジウム「食と健康の未来への飛躍」
- ・環境問題の解決に貢献する生物資源工学コロイド／ナノ技術の基礎と応用
- ・農業 x 人口知能：世界的な Society5.0 と SDGs 達成に向けた食料生産の自給自足
- ・ICR セミナー「多様性のある政治的代表に向けて：ジェンダー・障害者・エスニシティの平等」
- ・市内の商業施設において SDGs 推進への取り組みポスター展示

#### 8. SDGs の達成とその先を見据えた本学の取り組みを紹介するウェブサイト「Driving Sustainable Development」による本学の SDGs に関する取り組みの積極的公表。

2019 年 6 月に開設した「Driving Sustainable Development」において、前項の講演会やセミナーといったイベント案内をはじめ、本学の SDGs に関する取り組み事例や研究センター、リサーチ・ユニットで取り組んでいる研究プロジェクト等を社会に向けて精力的に公表している。

#### ○参考情報

Driving Sustainable Development WEB サイト：<https://www.osi.tsukuba.ac.jp/sdgs/>

## 【成果の測定】

### 1. SDGs にかかる授業科目

それぞれの授業の履修者数の実績は以下のとおり。

(人)

授業科目名	対象学生	実施学期	2019	2020
地球規模課題へのアプローチ	学群生	秋学期	23	59
地球規模課題と国際社会：食料問題	大学院生	秋学期	21	54
地球規模課題と国際社会：海洋環境変動と生命	大学院生	春学期	6	10
地球規模課題と国際社会：社会脳	大学院生	秋学期	2	4
地球規模課題と国際社会：感染症・保健医療問題	大学院生	秋学期	9	21
地球規模課題と国際社会：社会問題	大学院生	春学期	8	11
地球規模課題と国際社会：環境汚染と健康影響	大学院生	秋学期	21	26
地球規模課題と国際社会：環境・エネルギー	大学院生	春学期	16	21
合計			106	206

### 2. 地球規模課題学位プログラム

地球規模課題学位プログラムではこれまで 26 名の学生（2017 年：6 名、2018 年：7 名、2019 年 9 名、2020 年 4 名）を受け入れ、2021 年 9 月にプログラムで初めてとなる卒業生を輩出する。当該卒業生の卒業論文では、SDGs に関連させたテーマを取り上げており（以下のとおり）、プログラムの趣旨である地球規模の課題の解決に資する人材育成について一定の成果が得られている。

（BPGI 学生の卒業論文のテーマ例）

「Fullerene Crystal Derived Nanoporous Carbon for Energy Storage Application」

SDGs の関連 Issue：Goal 7 エネルギーをみんなに そしてグリーンに

「Indonesian Bird Trend: Market, Regulations in Indonesia, and Progress Towards Achieving the SDGs」

SDGs の関連 Issue：Goal 15 陸の豊かさを守ろう

「A Comparison of the influence of social media on the rate of suicide in Japan and Taiwan」

SDGs の関連 Issue：Goal 3 すべての人に健康と福祉を

「The conceptual framework of promoting the internationalization of higher education in Taiwan and Japan」

SDGs の関連 Issue：Goal 4 質の高い教育をみんなに

### 3. グローバルイノベーション学位プログラム

グローバルイノベーション学位プログラムの 2 専攻ではこれまでに GIP-TRIAD で名（2017 年：13 名、2018 年：11 名、2019 年 11 名、2020 年 13 名）、JMSES で名（2017 年：3 名、2018 年：1 名、2019 年 5 名、2020 年 1 名）の学生を受け入れ、それぞれ 23 名と 5 名の修了生を輩出している。また、開設から 3 年目を終えるにあたって外部委員によるプログラムの評価を受け、各ホームページ上で評価結果を公表している。外部評価ではおおむね高い評価を受けており、特に JMSES では共同設立の構造への評価として、「SDGs の実務家を養成するプログラムとして機能する様構築されている」と

いうコメントもあった。

#### ○参考情報

国際連携食料科学専攻【GIP-TRIAD】外部評価結果：

<http://www.gip.tsukuba.ac.jp/semester-reports/index.html#second>

国際連携持続環境科学専攻【JMSES】外部評価結果：

<https://www.ses-tsukuba.jp/wysiwyg/file/download/1/890>

### 4. 筑波会議 2019 及び TGSW2020

筑波会議 2019 では地球規模課題を様々な視点から議論する 50 セッションを開催し、およそ 1500 人もの参加者を得た。また、同会議において、人と自然と多様性への敬意を根底に、Future Shapers のコミュニティが力を合わせて喫緊の地球規模課題の克服に挑む決意を広く国内外に向けて示すものとして筑波宣言 2019 を策定した。TGSW2020 では、コロナ禍の対応としてオンラインでのセッション開催も含め 36 セッションを実施し、およそ 1000 人の参加登録者数を集めた。

#### ○参考情報

筑波会議 2019 のセッション：<https://tsukuba-conference.com/2019/>

筑波宣言 2019：<https://tsukuba-conference.com/archives/1396>

TGSW2020 のセッション：<https://tgsw.tsukuba.ac.jp/TGSW2020/session/>

### 5. SDGs 大学連携プラットフォーム (SDGs-UP)

2020 年 11 月の SDGs-UP 第 1 回ワークショップからこれまでに 8 回のワークショップに参加し、本学の取り組みの成果発表や他大学とのグループ討議等を通じて、本学の成果発信及び関係大学・機関との連携強化を行った。ワークショップ各回の実施報告については、United Nations University のウェブサイト (<https://ias.unu.edu/jp/>) に情報が掲載されている。

(ワークショップ実施情報)

回数	開催日	参加大学数	参加者数
第 1 回	2020 年 10 月 30 日	29	72
第 2 回	2020 年 11 月 11 日	25	45
第 3 回	2020 年 12 月 15 日	28	54
第 4 回	2021 年 1 月 27 日	28	71
第 5 回	2021 年 2 月 18 日	24	49
第 6 回	2021 年 3 月 24 日	27	84
第 7 回	2021 年 5 月 12 日	26	78
第 8 回	2021 年 6 月 18 日	25	62

### 6. カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション設立

本学は地域ゼロカーボン WG 準備委員会メンバーとしてかわり、2021 年 7 月 29 日の同コアリション設立に貢献した。今後は、地域ゼロカーボン WG に加え、ゼロカーボン・キャンパス WG にも参加

することとなり、本格化するコアリションの取り組みにおいても積極的な活動を継続する。

#### 7. SDGs に関するテーマの講演会やセミナー

前章取組状況 4 で挙げたイベントなど、本 COE 対象期間において SDGs に関するテーマとして講演会やセミナー等を 15 以上実施し、本学学生、教職員、そして社会一般に向け、持続可能な成長を実現するための啓発活動を行った。

#### 8. 「Driving Sustainable Development」による本学の SDGs に関する取り組みの積極的公表

「Driving Sustainable Development」ウェブサイトでは本 COE 対象期間において、15 件のイベント情報を掲載している。また、SDGs のカテゴリーごとに本学の取り組み事例ページには 80 件の事例が掲載されており、広く社会に対して本学の取り組みを発信した。同サイトの閲覧者数は月平均約 3,400 であり、年々 SDGs への関心の高まりも相まって、閲覧者数は伸長傾向にある。

#### 9. その他

「THE 大学インパクトランキング 2021」において、本学は国内最上位、世界 101-200 位にランクインした。特に、次の項目では世界 100 位内に位置している。

SDG1「貧困をなくそう」(85 位)

SDG6「安全な水とトイレを世界中に」(94 位)

SDG9「産業と技術革新の基礎をつくろう」(37 位)

SDG15「陸の豊かさも守ろう」(83 位)

SDG17「パートナーシップで目標を達成しよう」(97 位)

#### ○参考情報

THE Impact Rankings 2021 :

<https://www.timeshighereducation.com/rankings/impact/2021/overall#!>